

Title	数学と才能
Sub Title	
Author	坂内, 健一 (Bannai, Kenichi)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2013
Jtitle	新版 窮理図解 No.12 (2013. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000012-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

数学と才能

坂内健一

数学は難しいとか、問題の解き方が分からない、などという言葉をよく耳にします。全く同感です。私自身、数学を研究していることから、理解できるかどうか分からない現象や、解けるかどうか分からない数学の問題に日々直面しています。それでも理解しようと一生懸命に努力したり、問題を解こうとながく考え続けると、少しずつ物事が分かってくるようになります。数学に王道なし、というユークリッドの言葉の通り、数学の力は一朝一夕に身に付くものではありません。

数学の天才というと、生まれながらにして全く苦勞せず、数学的内容をすらすらと理解していくことができる人を想像

するかもしれません。しかしながら、数学の才能は努力によって生み出されるということを、圧倒的な業績で若くして Fields 賞を受賞したタオ (Terence Tao) 氏も、自身のブログで綴っています。世界的に活躍している音楽家やスポーツ選手の華麗な技が日々の努力の賜物であるように、数学の問題を解くための斬新な発想も、やはり日々の鍛錬から生み出されます。

数学の新しい概念や難しい問題に出合ったとき、どんなに才能のある人でも解いたり理解したりするのに深く考える必要があります、時間もかかります。考える力は筋力と同じで、大きな負荷をかけることで格段に伸びます。安易に「才能がない」と思い込んでしまうと、誰しもが通る努力のステップで諦めてしまうこと

になります。

たとえば、昔は偏見から、女性は数学に向いていない、と誤解する人もいました。このために才能がないと思い込み、数学の勉強を諦めてしまった女性は少なからずいたと想像します。しかしながら、近年の教育の成果で、アメリカでは 2008 年以降、高校での数学の標準試験で、男女の得点の分布差が一切なくなりました。この結果は、多くの女性が、数学の才能がないという思い込みから解放されたことによると思います。

筋トレで体力がついてくるのを実感できると、とても気持ちが良いのと同様に、考える力がついてくるのを実感できるととても壮快です。理解するまでに頑張る必要があるだけに、開かれた世界はとても面白いものです。

理 工 学 Information

第 16 回 KLL 慶應義塾産学連携セミナー

<http://www.kll.keio.ac.jp/>

2013 年 2 月 22 日 (金)

機械工学の基礎テーマとも言える「精密加工」「アクチュエーション」「シミュレーション」等の研究活動をご紹介します。詳細は上記 Web サイトにて順次公開予定です。

理工学部(矢上)新 34 棟(仮称)新築工事

去る 12 月 12 日、矢上キャンパスにおいて、創立 150 年事業の一環である理工学部(矢上)新 34 棟(仮称)新築工事の地鎮祭が行われました。この新棟は機械系・化学系・管理工学系の実験実習教育の場として、理工系のトップ人材の育成のための環境としても期待されています。理工学部創立 75 年を迎える 2014 年 1 月に竣工の予定です。



完成予想図
(画像上部の白い建物)



© 慶應義塾大学

編集後記

表紙の構図は、この「新版 窮理図解」を手取る人と対話するイメージをと、坂内先生が希望されて決まりました。実際には、カメラの後ろに研究室の学生の方に立ってもらい、対話しながらの撮影となりました。坂内准教授が、いかに対話を大切にされ、それを表現したいかが、この表紙の取材からもわかります。

取材には水色のシャツで爽やかに現れ、優しい笑顔と穏やかな口調で語られました。工学系の学会ではスーツ着用が当たり前とされますが、数理系はスーツを着ていると不思議がられるという分野の違いも教えていただきました。

今号から本誌に関わることとなり、今後の若手研究者の方々との出会いを楽しみに、そして引き続き、研究や研究者自身の魅力を皆様にもわかりやすくお届けできるよう努めさせていただきます。

(中野祐子)

新版 窮理図解



No.12 2013 January

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川彦彦 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 青山藤詞郎
発行 慶應義塾大学理工学部
〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp
web 版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>
twitter <http://twitter.com/keiokyuri>
facebook <http://www.facebook.com/keiokyuri>